

第105期定時株主総会 質疑応答要旨

日 時	2026 年 6 月 19 日 10:00～
議 長	代表取締役社長執行役員 CEO 中野 賀津也

Q. 宮崎県延岡市に建設を予定している新工場では、どのような製品を製造する予定なのか。また、宮崎県延岡市中の瀬町にある延岡製造所の今後の位置付けについても教えてほしい。

A. 回答者：執行役員 管材システム事業部 事業企画統括部長 萩原 俊一郎

当社ではこの新工場を『管材第二製造所』と呼んでいます。管材第二製造所では、成長性・収益性の高い半導体分野向け製品であるDymatrixシリーズの製造を予定しております。本投資により、同製品の生産能力を現在の約3倍まで拡大する計画です。

足元でも受注は堅調であり、生産能力の増強により、顧客ニーズへの対応力を高めるとともに、更なる収益拡大を図ってまいります。

一方、宮崎県延岡市中の瀬町にある延岡製造所につきましては、引き続き管材システム事業の重要な生産拠点として位置付けております。Dymatrixシリーズの生産を管材第二製造所へ移管することで生じる余力を活用し、マザー工場としての機能強化および競争力の向上を図ってまいります。

Q. 今回の決算では、管材システム事業が減収減益となったが、次期以降の見通しについて教えてほしい。

A. 回答者：取締役副社長執行役員 COO 管材システム事業部長 末留 末喜

2025年度は、国内・米国・中国における需要低迷の影響により減収減益となりました。

一方、2026年度は、基幹製品において国内および中国市場に一部弱さが残るものの、国内・韓国・米国を中心とした半導体関連需要が下支えし、管材システム事業全体としては増収増益を見込んでおります。

製品別では、バルブなどの基幹製品は底堅く推移し、価格改定の効果も含め前年並みの業績を見込んでおります。また、エンジニアリング事業についても、半導体関連需要を背景に前年並みで推移すると見込んでおります。

一方、半導体製造装置向けのDymatrixシリーズは引続き堅調に推移しており、国内および韓国を中心に需要拡大が見込まれることから、成長を期待しております。

地域別では、中国および国内市場において一部弱さが残るものの、半導体工場向け製品の需要拡大が見込まれます。米国においてもAI関連需要の高まりを背景に半導体工場への投資が進んでおり、関連製品の需要増加を見込んでおります。

以上により、2026年度の管材システム事業は増収増益を見込んでおります。

Q. AIなどの新技術の活用状況およびサイバー攻撃への対策について教えてください。

A. 回答者：取締役専務執行役員 CFO コーポレート統括本部長 氷上 英夫

生成AIは、業務効率化および生産性向上に資する重要な技術と認識しております。

当社では数年前からAIを活用しやすい環境づくりを進め、現在はChatGPTやCopilotといった生成AIツールを社員が利用可能としており、約70%の社員が活用しております。

具体的な生成AIの活用例として、契約書審査業務があります。従来は法務担当者が個別に確認していた業務の一部について、生成AIを活用することで効率化を進めております。このほかにも様々な業務への活用を進めており、今後も生産性向上に取り組んでまいります。

サイバーセキュリティについては、経営上の重要課題として位置付けており、取締役会において、リスク認識や対策状況、今後の課題について議論しております。

具体的には、外部の専門家による脆弱性診断などを実施し、旭有機材グループ全体のシステムに弱点がないかを評価しております。また、確認された課題への優先的な対応を通じ、セキュリティ強化を図っております。

さらに、様々な対策を講じておりますが、万一のサイバー攻撃に備え、被害の最小および早期復旧に向けた体制整備にも注力しております。

<注意事項>

本資料に記載されている内容は、株主総会の質疑をもとに要約した当社の見解であり、その正確性および完全性を保証またはお約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。